

## 25 護王神社と國體記念碑(追補)

昨年12月19日の当会でお披露目いたしました杉谷の國體記念碑について、早速、秋山政彦さんから情報提供がありました。どういう手を使ったのか、ともかく碑の裏側に「小豆島靈場巡拝信者中」と刻んであることが判明しました。建立期日は見えません。

しかしこれを手がかりに、近くの林洗志さんの祖母林トクさんが、大正3年に靈場開創1100年記念の巡拝をされていたことがわかりました。記念碑はおそらく大正3年ないし4年に建てられたのではないのでしょうか。

大正3年といえば第一次世界大戦において日本がドイツに宣戦を布告した年に当たります。

また、トクさんは明治37年に四国八十八ヶ所を巡拝されていたこともわかりました。道中、肌身離さず身に付けられていたお守り袋が112年の時を経て初めて開かれましたが、中には吉備津神社の紙札と5ミリ×5センチばかりの薄い錆びた金属板が入っていました。因みに、明治37年といえば日露戦争開戦の年です。

果たして、トクさん達は何を祈念しながら巡拝したのでしょうか。

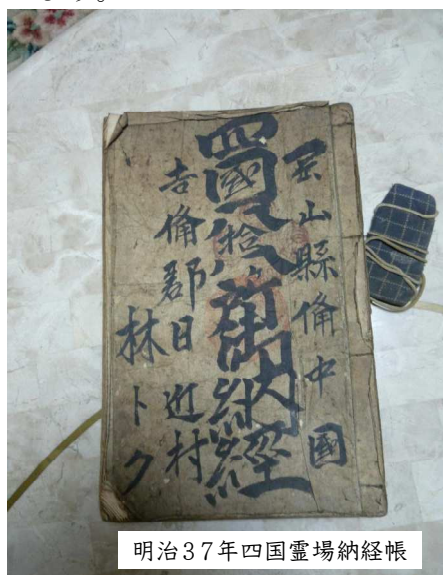
両度とも戦時ということ。また、巡拝者の総意として「國體碑」が建てられたということを考えれば、我が身のことより御国のこと、更には、出征兵士に思いを寄せながらの旅でもあったのでしょうか。

さて、杉谷というところはトクさんに見られるように非常に信心深い人達が多い土地柄であるのか…？尾根伝いに次頁の写真の様な立派な石造りの小祠が祀ってあります。「杉谷八十八ヶ所」とでも言うものでしょうか。第八十八番は、林さんの自宅前の路側にありますが、八十七、八十六番と3基並んでいますので、どこぞ近くから移転したものもあるのでしょうか。

1基当たりの大きさから言えば、真ん中の竿石だけでも十分他にひけはとりませんが、写真の様に立派な台座の上に竿石、笠石が載せてあります。しかも、竿石の下部を砲弾型に彫り込み、中に高さ12cmほどの備前焼きの弘法大師が据えてあります。ただ、お宮の狛犬でさえ失せるという時節ですから、こんなものをポケットに仕舞い込むのは造作もないことで、残っているのは、見たところ3基という有様です。



大正3年小豆島靈場開創1100年記念



明治37年四国靈場納経帳

平成29年1月16日 つるつる会

竿石には向かって右に札所番号、左に施主の住所地と名前が刻んであります。右のものは「第七十一番」、「深茂 長門米治」とあります。よく見ると他にも「栗井 中田」、「○畑 中西」…という次第です。また、七十八番の長門○二郎さんの竿に何故に先達と刻んであるのかも解せません。



このように杉谷八十八ヶ所の札所に他地区の人の名前が見えるというのはどういうことなのでしょう。彼等は此の地とどういう因縁があるのでしょうか。

このあたりは、備前、備中の国堺であり、足守と大井の庄堺でもあるようです。東部山頂には、今も妙見様、大山様が祀られていて、往時の牛市はかなりの賑わいを見せていたという事です。

(※) この杉谷の地が、国宝足守庄絵図にみえる「足守庄と大井庄」の丑寅榜示（北東部堺）と言うの筆者だけですが、相当確実なものと思っています。

先日、久田地区内、城山の山頂で見つけた<sup>いぬいぼうじ</sup>戌亥榜示（北西部堺）とおぼしき物とあわせて、いつかお披露目いたしたいと考えています。

### 「尋ね地藏尊」

写真に見える砂岩製の延命地藏2体、くっきりと景が写るほど肉厚に彫り出されています。指定文化財級のもの？右は十八番、左は二十一番です。大井字下カシヤ地内、鍛冶山の麓にあります。



この延命地藏は、大井中之町の北向き地藏、東町、馬場、弓矢、谷光、宮東、宮山、大森の地藏と一連のものです。

これらの地藏が立つ道筋は、国宝足守庄絵図に見える、大井川を左岸に渡り鍛冶山へ吸い込まれている道に違いありません。